



つぶした大豆に、こうじと塩をまぶす武蔵東小学校の皆さん



武蔵西小学校でみそづくりの指導にあたる安永さん(右)

武蔵町

日本の食文化のすばらしさを伝えたい 小学生がみそづくり体験

2月22日(金)午前10時から、武蔵東小学校3年生35人の児童の皆さんが、みそづくりの体験学習をしました。

この日は、児童の皆さんが近くの田んぼで栽培した大豆とこうじ、塩だけを使って文字通り手作りのみそづくりにチャレンジしました。あらかじめ煮込んでおいた大豆をつぶし、こうじと塩をまぶすと、会場のランチルーム内には、みその香が漂い始めました。

みそづくりの指導には、武蔵町でみそやしょうゆの製造販売業を営む安永醸造の安永隆一社長夫妻や社員の皆さんがあたりました。午後からは、武蔵西小学校3年生9人の皆さんもみそづくりを体験しました。

この日仕込んだみそは、児童の皆さんがそれぞれ特製の箱につめて自宅に持ち帰りました。今年の夏には食べられるようになるとのことでした。

安永さんは「この体験学習を通して、日本の食文化のすばらしさと、先人の智恵が生みだしたみそのすばらしさを感じてもらいたい。」と話してくれました。



全員で「打ち込み」をして、区の発展と区民の幸せを祈りました



「千両箱」「米」などと書かれた荷札をつけた小箱がぎっしりと積み込まれた宝舟「下成仏丸」

国東町

区民の幸せを祈って 舟づくり倉づくり

2月20日(水)、下成仏区に古くから伝わる伝統行事「舟づくり倉づくり」が行われました。旧暦の1月14日に、この一年間に嫁を迎えた家には「宝舟」を、婿を迎えた家には「宝倉」を作り新婚家庭を祝う行事で、市消防団下成仏班の皆さんにより継承されています。

今年は、地区内に対象となる家庭がありませんでしたが、伝統行事を絶やさないと松丸忠心区長宅に宝舟を贈ることになりました。午後7時過ぎに消防詰所に集合した団員の皆さんは、木材等を使って模型の宝舟を製作。午後11時頃、松丸区長宅にこっそり入り込み、床の間に宝舟を飾り、寅丸幸二班長の音頭で打ち込みをして区民の幸せを祈りました。